

はじめに

学生生活充実を支援する目的で、本年度も「学生生活調査」を実施し、それをこの『2003年度第22回学生生活調査報告書』にまとめました。

目的遂行のためには、まず実情の把握が必要です。実情を詳しく知るために、これまでの隔年調査をやめて、一昨年から毎年の調査に切り替えました。学生はどのようにして、どれほどの収入を得ているのか。そして、何にどれほど支出しているのか。勉強は、遊びは、何に喜び、何に悩んでいるのか等々。この報告書は、早稲田大学の学生のいつわらざる姿を浮き彫りにしています。また、全体像を追うことに主眼を置いているため、学部・研究科あるいは留学生・社会人学生ごとの調査にはなっていません。

調査のため、学部学生および大学院学生から無作為に一万人を抽出して回答してもらいましたが、幸いなことに「学生生活調査」の趣旨が十分に理解され、今年度は昨年度より高い回答率(32.6%)を得ることができました。

この報告書作成に当たり、多くの方々の協力を得ました。アンケートはWaseda-netポータルを利用しましたが、アンケート画面の設計等には情報企画課およびITセンターのお力を借りました。

調査結果の分析と全体のとりまとめには、社会科学部葛山康典先生にご協力いただきました。各章の分析と執筆者は、教育学部稲葉敏夫(第1章)、人間科学部齋藤美穂(第2章)、理工学部大野高裕(第3章)、商学部川村義則(4章)、文学部大藪泰(第5章)の各先生です。末筆ではありますが、協力していただいた皆さまに心から感謝いたします。

この報告書は本学の学生生活支援の基礎資料となりますが、読み物としても実に面白い。早稲田大学の学生の実情はどうか。大変興味深い内容がこの報告書に満載されています。ぜひご覧ください。

2003年10月21日

早稲田大学学生部
学生部長 岩井方男